

「高効率・高速処理を可能とする AI チップ・次世代コンピューティングの技術開発事業」
事前評価結果概要

目 次

研究評価委員会名簿	1
評価概要	2

はじめに

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構においては、外部専門家、有識者等によって構成される研究評価委員会にて被評価対象プロジェクトの事前評価を行い、評価結果を確定している。

本書は、「高効率・高速処理を可能とする AI チップ・次世代コンピューティングの技術開発事業」の事前評価結果であり、第52回研究評価委員会（平成29年7月3日）に諮り、確定されたものである。

平成29年10月
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
研究評価委員会

研究評価委員会 委員名簿

職 位	氏 名	所 属、役 職
委員長	小林 直人	学校法人早稲田大学 研究戦略センター／研究院 副所長・教授／副研究院長
委 員	浅野 浩志	一般財団法人電力中央研究所 エネルギーイノベーション創発 センター 研究参事
委 員	安宅 龍明	先端素材高速開発技術研究組合 (Hi-Mat) 専務理事
委 員	稲葉 陽二	学校法人日本大学 法学部／大学院 法学研究科 教授
委 員	亀山 秀雄	国立大学法人東京農工大学 名誉教授／シニア教授
委 員	五内川 拓史	株式会社ユニファイ・リサーチ 代表取締役社長
委 員	佐久間 一郎	国立大学法人東京大学大学院 工学系研究科 附属医療福祉工学開発評価研究センター センター長／教授
委 員	佐藤 了平	国立大学法人大阪大学 産学共創本部 名誉教授／特任教授
委 員	宝田 恭之	国立大学法人群馬大学 特任教授
委 員	平尾 雅彦	国立大学法人東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 教授
委 員	丸山 正明	技術ジャーナリスト／横浜市立大学大学院非常勤講師
委 員	吉川 典彦	国立大学法人名古屋大学 名誉教授

(敬称略、五十音順)

「高効率・高速処理を可能とする AI チップ・次世代コンピューティングの技術開発事業」

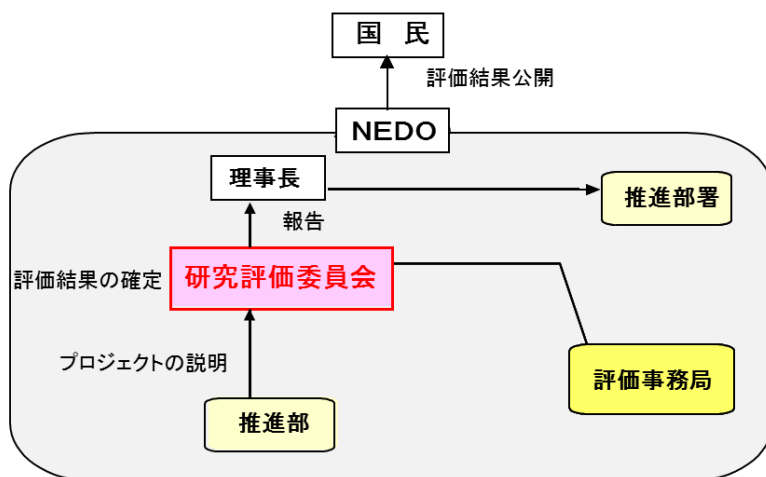
(事前評価) 評価概要

1. 総合評価

半導体及びコンピューティング分野で、世界における我が国のプレゼンスが低下している中、それを覆す可能性を持ったプロジェクトであり、着実に推進すべきである。ハードウェア、ソフトウェア、応用を一体で開発することにより、具体的な社会課題解決に繋がることを期待したい。日本の産業の真の復活を目指す戦略的提案に繋げるべく、国内外の先端研究プロジェクトの動向と成果を精査し、研究開発シーズの現状把握と強み・弱みの分析をしっかりと行った上で、研究開発項目のより具体的な選定と、それらの有機的な連携を実現するシナリオを策定する必要がある。

このような非連続的イノベーションを目指す研究では、単純な数値目標や年次線表で道筋を示すような進捗管理ではなく、リーダーの権限を強化し、機動性・融通性を重視した、スピード感のあるプロジェクトマネジメントが重要である。また、人材の発掘・育成・活用が成功の鍵であり、産学連携や中小ベンチャー企業支援を通じて、それらを柔軟に行える体制づくりをするべきである。

● 事前評価の実施体制と手順



NEDO研究評価委員会

- ・外部の専門家、有識者で構成
- ・プロジェクトの事前評価を実施（評価コメントを作成）
（実質的な評価の場）
- ・評価結果を確定し、理事長へ報告

評価結果の取扱い

- ・国民に公開

評価委員	研究開発成果の技術的、経済的、社会的意義について評価できるNEDO外部の専門家、有識者
プロジェクト推進部	NEDOプロジェクト担当部
事務局	NEDO評価部

● 事前評価における評価項目・基準

- 評価項目1 アウトカムの妥当性
- 評価項目2 研究開発内容及びアウトプットの妥当性
- 評価項目3 NEDO（国）が実施することの必要性
- 評価項目4 アウトプットからアウトカム達成に至るまでの道筋（ストーリー）の妥当性
- 評価項目5 研究開発の実施・マネジメント体制等の妥当性
- 評価項目6 費用対効果の妥当性
- 評価項目7 非連続ナショナルプロジェクト選定の妥当性